

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400427		
法人名	株式会社みなとの丘グループ		
事業所名	グループホーム風の丘		
所在地	出雲市小津町23-1		
自己評価作成日	令和5年5月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanietue&lijosyoCd=3290400427-00&ServiceCd=320&Type=search#title02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和5年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はご利用者と意識的に関わり、洗濯物たたみや調理補助(野菜切り等)など、その方の力が一瞬でも発揮できる場面を提供している。ご家庭で慣れた箸やコップ、家具や小物を持参して頂き、生活の場として馴染んで頂くよう努める。また、社会とつながり、地域共に暮らしていけるケアを目指しており、近隣漁協との連携で新鮮な魚を提供できる関係性を気付いている。さらに、徳洲会病院と往診対応と訪問看護の定期訪問契約を締結することで医療面での安心を強化している。万が一の救急搬送先としてもベッドが確保されているため、ワンストップの介護医療連携が可能となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から今年で10年を迎える2階建て2ユニットのグループホームです。
 「尊重し、穏やかな生活を彩れる支援」を理念に住み慣れた地域で暮らしていけるよう、利用者それぞれが食事の準備の手伝いや洗濯物をたたむ等役割を持ちながら、利用者が自分でできることを継続して頂けるような支援を心掛けておられます。地域性を活かした取り組みとして、近隣の漁協との連携で利用者が喜ばれる新鮮な魚の提供も行われています。ホームの畑で野菜の栽培も行われており、献立にも取り入れられ提供されたり、手作りのおやつ作りも楽しんでいます。定期的な往診・訪問看護契約が締結されており、利用者や家族への安心に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所・玄関に掲示し同じ思いのケアを実践している。職員会議にて理念の読み合わせして共有と定着に努めている。	グループホーム開設当初に職員の思いを取り入れた理念を作成され、事務所、玄関にも掲示されています。職員会議の際に理念の読み合わせを行い、共有することにより実践へと繋げておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあり、地域の方々との交流の機会は減少している。	開設から10年目を迎えられ、地域のコミュニティセンターや地域の方等と関係も築かれてきましたがコロナ禍により現在交流が減少しています。今年度5類移行後は従来のように地域との交流を大切に取組みを行われる予定にしております。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて認知症の人の理解や支援方法を積み上げてきている。しかし、コロナ禍でそれらを地域の人々に向けては活かしかけていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということもあり、ご家族、地域の方の参加による運営推進会議は書面開催となっている。次回から対面での開催を予定している。	2ヶ月に1回、行政、家族、地域の方に参加頂き年6回開催されています。コロナ禍により、感染予防のため書面開催でしたが、今年度5類移行後は対面で開催予定です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面や電話にてケアの実践内容を報告し、意見を伺ってサービス向上に取り組んでいる。	コロナ禍により中止にされていましたが、出雲市の介護相談員の訪問も再開されています。簡単な内容は平田の行政センターに出かけられ、詳しい説明等の場合は本庁まで行かれ相談や意見を伺っておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等ケア適正化のための指針を作成し、職員がいつでも指針を確認できるよう整備している。身体拘束廃止委員会により、尊厳のあるケアが行われているか検討している。	指針も作成されており、身体拘束廃止委員会は3か月に一度開かれています。職員研修は年に2回以上実施されています。勤続年数の長い職員も多いので利用者との信頼関係は築かれています。	

7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、施設内で職員がテーマを決め、高齢者虐待防止を含めた職員研修を実施している。研修後は、各自が研修報告書を作成、実践に活かしている。また、職員が相談できる環境づくりに努めている。	身体拘束廃止委員会と同時に虐待防止委員会も作成されており、指針も設置されています。職員研修も実施され研修報告書も作成しておられます。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修参加後に、参加した職員により施設内で確認研修を実施して権利擁護への理解を深めている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時および改訂時は十分な説明を行い、理解・納得を得た。不明点には都度対応している。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。ご要望に応じご利用者・ご家族の意見を元にケア間を実施し要望にお応えできるようケアに活かしている。	面会時やプラン変更時には利用者本人の様子をお伝えし、家族の方に意見・要望を伺われています。コロナ禍になり面会制限もありますが、極力意見・要望を確認し対応できるようにしておられます。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催。経営者の方針を共有し、職員の意見や提案を運営に反映させている。	毎月の職員会議では職員間の情報共有を行い、代表者が参加される時もあり職員からの意見を聞かれています。日頃より、管理者は職員に声掛けを行い意見等を確認しておられます。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、代表者や管理者との面談を実施し笑顔で働ける職場であるよう努めている。	代表者や管理者との面談時には職員の目標や異動・研修の希望の聞き取りも行い風通しの良い職場作りを目指しておられます。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修に加え、ご利用者の状態変化に対応すべく実情に即した施設内研修を予定している。	認知症ケアを中心に必要と思われる研修が受講できるように対応しておられます。コロナ禍の中ではWeb研修が中心でしたが、施設内研修も行いながら職員のスキルアップに努めておられます。	

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設見学等の交流を図り、客観的に自施設のケアを見直したり良い部分を取り入れられる機会を設けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設見学をして頂き、ご本人やご家族のご要望・ご不安を傾聴し支援に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階からご家族のお困りごとに耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、医療機関、居宅介護支援事業所等の意見を踏まえ、グループホームへの入居が最適なのか検討したうえで入居して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の視点でなるべく見守りを中心にケアを行い、お困りごとを支援している。ご利用者は人生の先輩であり、職員が教えて頂く場面を作り「役割」を感じて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全面的に面会・外出・外泊を再開している。不測時には速やかにご家族へ報告をしている。また、定期的に利用者の日頃の様子について報告をして、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流の場を提供している。ご家族等からの情報をもとに馴染みの人や場所を会話の中に取り入れるようにしている。	コロナ禍に於いても馴染みの方との交流が途切れないようしておられます。また、日常の会話の中でも馴染みの「人の野馴染みの芭蕉の会話をして頂けるよう情報提供し話して頂いております。	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	ご利用者の心身に配慮した座席を決め、入 居者同士が良い関係を築いていけるよう努 めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じてご本人、ご家族 にとって最適な環境について考え、支援する よう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご家族を含め、ご本人との会話、表 情等から意向の把握に努めている。 そして、ご本人を中心としたケアを 心がけている。	日々の会話の中から本人の希望や意向をくみ取 れるよう努めておられます。把握の難しい利用者 の場合には、生活歴、職歴や家族間らの情報を得 ながら本人本位となるようにしておられます。	生きる目標や、生きがいでくりに繋がが邸狩 れると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご本人、ご家族からの聞き取り、情 報提供書により生活歴の把握に努め ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	毎日、職員がお一人おひとりの生活 を含めた状況確認を実施、記録をし ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	ご利用者の困りごとが課題になることも 多いが、ご本人・ご家族・関係者と話し 合い、ご利用者の気持ちを大切にした介 護計画作成に努めている。	短期目標は半年ごとにプラン見直しが行われてお り、計画作成担当者は注意点・留意点について原 案に赤字で書き入れ、全職員からの意見を聞き取 り、家族や医師の意見も伺いながら本案が作成さ れています。	認知症の進行なのか、加齢による体力の 衰えなのか多くの職員によるモニタリング の継続に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、情報共有を行ってい る。モニタリングも含め、日々のケ ア、介護計画の見直しに活かしてい る。	実施したサービスの記録をつけ、申し送りの際にも 情報共有を行い確認されています。プラン変更時 の注意点・留意点についても共通理解されていま す。	

28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族と話し合い、要望に応じた支援に取り組んでいる。病院への送迎、付き添い等、個別のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしに関わる社会資源を把握、活用している。ご利用者が残存能力を活かした、自分らしい生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族が安心して医療を受けられるよう、できるだけ入居前からのかかりつけ医に診察して頂けるよう支援をしている。	在宅時からのかかりつけ医を利用して頂いておられ、全員のかかりつけ医が往診に来られています。他科受診は、原則家族同伴としておられますが、無理な場合は職員が同行されています。歯科の協力医の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師、訪問看護ステーションと連携、情報共有をしている。病状の把握、早期治療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関へご利用者の情報提供をしている。入院中も職員がご家族と連絡をとったり、医療機関と早期退院に向け情報交換を行っている。	入院時には医療機関の地域連携室にホームでの様子を含め認知症の情報提供等を行い、早期退院に繋がるようにしておられます。退院時には、地域連携室と院カンファレンスを開催し、退院後の生活のアドバイスを聞いておられます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人・ご家族の意向をふまえながら、主治医と相談して対応している。また、グループホームにおける重度化対応に関する指針を作成中である。	重度化や終末期を迎えた場合には、利用者・家族等の意向、主治医の意見を確認し、今後のほうが決定されます。入所時に説明できる重度化対応指針を作成中です。今後終末期の協力医療機関との連携も検討中です。	グループホームにおける重度化対応に関する指針については早期作成され、利用開始に説明し同意を得られる事に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成している。救命救急やAEDの使用について、講習会への参加を計画している。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で定期的に避難訓練をしている。しかし、地域との協力体制が築けているとはいえない。	火災や地震、水害等の災害時に対応できるよう、法人内で、年2回の避難訓練を実施され、消火訓練・非常用連絡の練習等が行われています。	BCP(事業継続計画)については、今年度中の作成を望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格を尊重し、正確灯把握し、誇りやプライバシーを損なわない声掛けや対応を行っている	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣い、声掛けの際等、日々の関わりの中でプライバシーを損なわないよう心掛けておられます。	定期的な接遇研修の実施に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを発言出来るように働きかけ自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの体調や気分によりその日どのように過ごしたいのか声かけを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型、衣服の汚れなど、整容と身だしなみに気を配り清潔感を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り食の宅配サービスと、職員による手作り食を提供。盛り付けやおやつ作りなど一緒に楽しみと役割の機会として提供している。	畑で栽培し、収穫された野菜が献立に活用されています。週に2回は職員が作る手作りの食事が提供され、その他の曜日は手作りの宅配食のサービスを利用されています。役割分担され、行事食や季節感のある食事やおやつ作りを楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々のケア記録に食事量と水分量を記録し、日々の体調管理に活かしている。		

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨き、義歯洗浄、残歯磨き、残渣除去をご自分で出来る方は自立的に、出来ない方・不十分な方には介助で実施している。	食後の清潔保持を心掛け、個々に対応した声掛けや支援が行われています。義歯は夜間に洗浄液に入れられます。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄間隔を把握し、声かけによるトイレ誘導に努めている。心身の状態を考慮し、希望者または安全面に配慮が必要なご利用者には居室にポータブルトイレを設置して自立排泄を支援している。	排泄チェック表でリズムを把握し、個々に対応した対応が行われています。夜間なるべくゆっくり休んで頂けるよう心掛けておられます。最期までトイレで排泄できるよう目指しておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為の非薬物的介入が希薄である。排便周期を記録し、主治医や訪看に相談し指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせて週2回以上入浴できるよう配慮している。	午前と午後に分かれて週2～3回利用者の希望に合わせて入浴頂いております。一般浴槽ですが、各々にあった支援をされ入浴されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者が疲れを感じている時には午睡の提案・提供を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書をすぐに閲覧できる場所に綴じている。訪問看護との定期訪問時に確認できる体制が出来ている。	調剤薬局から分包された状態で配達され、処方薬の説明も行われます。服薬時は職員、看護師のチェックの基支援されています。薬の変更時には情報共有を行い、看護師を中心に利用者の体調の変化に注意されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴と体力に合った役割や楽しみのある生活を支援している。疲れを感じている時には午睡の提案・提供を実施している。		

49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やご本人の体調を考慮しながら施設周辺の散歩や季節を感じるドライブを実施している。	天候等を見ながらホーム周辺を散歩されたり、ドライブで馴染みのある公園まで気分転換に出かけられたり、皆さんで食べるおやつを買いに行かれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じた自己管理は実施できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお電話に直接出いただく支援を行っている。また、家に電話をしたい方には職員が取次ぎを実施しているが、頻回の場合はご家族状況への配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日や西日の遮光、緑の見える窓を解放して季節の風を取り入れる工夫を行っている。	調光、換気、温度管理に気を付け、季節の移ろいを感じられるよう花を飾ったり、これからの時期には七夕飾りも一緒に飾る用意をされています。ホールでは各々がゆったりと過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士の座席配置に心掛けている。トラブルが起こりやすいご利用者については関係断絶にならない形で適度な距離を確保できる席配置としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや布団、TVなど持参していただいている。	落ち着いて、居心地よく過ごして頂けるよう自宅で使い慣れた物、好みの物や家族写真を持ち込んで頂いております。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「使用中札」を設置し、自立の方も文字で使用中であることが判別できるようにしている。		